

資料提供年月日	平成29年1月24日	
問い合わせ先	課名	文化振興課
	電話	直通 803-1054 内線 3743
	担当 (職・氏名)	課長 岸 副主査 高塚 主事 山根

## 広報連絡 〈市長定例記者会見資料〉

- 1 件名 第32回「坪田譲治文学賞」の受賞作決定について
- 2 趣旨 岡山市出身でわが国の児童文学に多大な功績をのこした故・坪田譲治氏（岡山市名誉市民）をたたえる「坪田譲治文学賞」の本年度の受賞作決定について発表します。
- 3 受賞作 『Masato』 集英社  
岩城 けい（いわき けい）著
- 4 選考経過 平成27年9月1日から28年8月31日までの1年間に、全国で刊行された小説・児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された96作品について、予備選考会を経て候補作5作品を選定しました。  
これらを平成29年1月17日（火）開催の選考委員会において審査し、上記の作品が選ばれました。
- 5 贈呈式・記念行事  
○日時：平成29年2月26日（日）15:00～17:00  
○場所：岡山市立市民文化ホール（岡山市中区小橋町一丁目1-30）  
○その他：現在、参加者募集中です。
- 6 問い合わせ先  
岡山市文学賞運営委員会事務局  
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1 岡山市文化振興課内  
TEL：086-803-1054 FAX：086-803-1763  
E-mail：bunkashinkou@city.okayama.lg.jp

### [添付資料]

- 資料1 第32回「坪田譲治文学賞」受賞作について
- 資料2 「坪田譲治文学賞」について
- 資料3 「坪田譲治文学賞」受賞作一覧
- 補足資料 取材について、坪田譲治文学賞贈呈式・記念行事チラシ

## 第 3 2 回「坪田譲治文学賞」受賞作について

(文中敬称略、50音順)

受賞作 『Masato』 集英社  
受賞者 岩城 けい (いわき けい)  
正賞 賞状及び記念品 (メダル『鳥の少年』蛭田二郎作)  
副賞 100万円

## ◆選考経過

平成27年9月1日から平成28年8月31日までの1年間(※)に全国で刊行された小説、児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された96作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作5作品を選定。

これを、平成29年1月17日(火)開催の第32回坪田譲治文学賞選考委員会(会場：東京都千代田区平河町「ルポール麹町」)で慎重に審査した結果、岩城 けい著『Masato』が選ばれた。

選考委員は、阿川佐和子、五木寛之、川村湊、西本鶏介、森詠の5名。

※選考の基準日は9月1日(岡山市文学賞条例施行規則第2条)

## ◆受賞者略歴

岩城 けい (いわき・けい)

大阪府生まれ。オーストラリア ヴィクトリア州在住。45歳。

大学卒業後、単身オーストラリアに渡り就職。以来、在豪24年になる。2013年に「さようなら、オレンジ」で太宰治賞を受賞しデビュー。14年、同作で大江健三郎賞を受賞した。『Masato』は、両賞受賞後初の作品となる。

## ◆受賞者コメント

このたびは、拙著を選んでいただき、誠にありがとうございます。大変うれしく光栄に思っておりますが、いまだ信じられず、驚きの方がはるかに大きいです。身のひきしまる思いです。

異郷に長くいると、自分と対峙することが多く、私にとって書くことは稚拙ながら、最良の表現方法であったかと思えます。この先も「異郷で生きること」「言葉と人間」をテーマに、少しでも良いものを目指し、努力いたします。

ありがとうございました。

**◆作品の概要**

真人は、父親の転勤にともない、家族全員で日本からオーストラリアに住むことになった。現地の公立小学校の 5 年生に転入した真人だったが、英語が理解できず、クラスメイトが何を話しているのか、ほとんどわからない。いじめっ子のエイダンと何度もケンカをしては校長室に呼ばれ、英語で説明できず鬱々とした日々が続く。そんなある日、人気者のジェイクにサッカークラブに誘われた真人は、自分の居場所を見つける。一方、真人の母親は、異文化圏でのコミュニケーションの難しさに悩み苦しんでいた——。こどもとおとな、日本と異国、ふたつの世界を生きる 12 歳の少年を描く、待望の著者第二作。

**◆選考委員のコメント 西本 鶏介（児童文学作家）**

異文化の中で他者とどうコミュニケーションをとればいいのか、父も母も葛藤する中で外国の小学校に転入させられた少年がいじめに耐え、みずから生きていける場所を見つけるまでをたくみな表現力が描き出した今日的な成長物語として評価できる。異国にいて、自分の故郷をどう考えるか、いまやマイノリティーな少年の問題ではないことを大人だけではなく子どもにも考えさせたいユニークな作品として候補作の中でも最も評点が高かった。

**◆【参考】今後の日程**

○贈呈式・記念行事 平成 29 年 2 月 26 日（日）15 時～17 時

〔岡山〕岡山市立市民文化ホール

○祝賀会 平成 29 年 3 月 24 日（金）18 時～19 時 30 分

〔東京〕ルポール麹町

## 「坪田譲治文学賞」について

(文中敬称略、50音順)

岡山市出身で、わが国の児童文学に新しい分野を拓いた坪田譲治のすぐれた業績を称えると共に、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資することを目的として、昭和59年12月に「坪田譲治文学賞」を制定しました。

### ◆坪田譲治文学賞

[目 的] 岡山市出身の小説家・児童文学作家で、岡山市名誉市民の坪田譲治の文学活動における偉大な業績を称えるとともに、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資する。

※坪田譲治 (つばた じょうじ)

明治23年(1890年)3月3日生～昭和57年(1982年)7月7日没

[対 象] 9月1日を基準日とし、前1年間に刊行された文学作品(小説、児童文学等)。

[選 考] 文学・出版関係者等から推薦された作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作4～6作品程度を選定。その中から選考委員が最終選考を行い、受賞作を選定する。

[表 彰] 正賞 賞状及び記念品(メダル『鳥の少年』蛭田二郎作)

副賞 賞金100万円

[選考委員] 阿川佐和子、五木寛之、川村湊、西本鶏介、森詠(5名)

## 「坪田譲治文学賞」受賞作一覧

回次	年度	作品名	著者名	出版社名
第1回	S60	心映えの記	太田 治子	中央公論社
第2回	S61	ふたつの家のちえ子	今村 葦子	評論社
第3回	S62	ぼくのお姉さん	丘 修三	偕成社
第4回	S63	四万十川ーあつよしの夏	笹山 久三	河出書房新社
第5回	H1	身がわりー母・有吉佐和子との日日	有吉 玉青	新潮社
第6回	H2	おどる牛	川重 茂子	文研出版
第7回	H3	こうばしい日々	江國 香織	あかね書房
第8回	H4	卵洗い	立松 和平	講談社
第9回	H5	半分のふるさとー私が日本にいたときのこと	李 相琴	福音館書店
第10回	H6	オサムの朝	森 詠	集英社
第11回	H7	泣けない魚たち	阿部 夏丸	ブロンズ新社
第12回	H8	ぼくたちの<日露>戦争	渡辺 毅	邑書林
第13回	H9	ぼくはきみのおにいさん	角田 光代	河出書房新社
第14回	H10	ナイフ	重松 清	新潮社
第15回	H11	ウメ子	阿川 佐和子	小学館
第16回	H12	ニライカナイの空で	上野 哲也	講談社
第17回	H13	翼はいつまでも	川上 健一	集英社
第18回	H14	麦ふみクーツェ	いしいしんじ	理論社
第19回	H15	人形の旅立ち	長谷川摂子	福音館書店
第20回	H16	ペーターという名のオオカミ	那須田 淳	小峰書店
第21回	H17	ぎぶそん	伊藤 たかみ	ポプラ社
第22回	H18	空をつかむまで	関口 尚	集英社
第23回	H19	しずかな日々	椰月 美智子	講談社
第24回	H20	戸村飯店青春100連発	瀬尾 まいこ	理論社
第25回	H21	トーキョー・クロスロード	濱野 京子	ポプラ社
第26回	H22	おれのおばさん	佐川 光晴	集英社
第27回	H23	鉄のしぶきがはねる	まはら 三桃	講談社
第28回	H24	きみはいい子	中脇 初枝	ポプラ社
第29回	H25	世界地図の下書き	朝井 リョウ	集英社
第30回	H26	クリオネのしっぽ	長崎 夏海	講談社
第31回	H27	いと森の家	東 直子	ポプラ社
第32回	H28	Masato	岩城 けい	集英社